

## 「現場主義」を通じた人材育成と地域開発

(インドネシア・小規模灌漑管理事業 ～ )

### 日本工営株式会社

インドネシアの中でも最も年間降雨量が少ない東部インドネシアは、インドネシアの中でも最も貧しい地域とされており、地域間格差及び貧困の緩和が緊急の課題であった。そこで、食料自給の達成及び地域間格差の是正を図るための「インドネシア国小規模灌漑管理事業」が1988年に実施され、1990年から2002年までの3期12年に亘って環境への影響が少ない中規模ダム、ため池、井戸等の水資源開発を伴う農業開発が実施された。これによりダム7ヶ所、ため池1ヶ所や灌漑用水路510kmなどの新規施設が建設され、105万人の受益者を生み出した。またハード面だけでなく、「現地主義」を徹底させることにより灌漑の技術移転を行うというソフト面の配慮も十分行った。本プロジェクトの円借款融資額は267.3億円である。また、2002年から2007年(予定)まで、27案件の第4期事業も現在行われており、円借款融資額は270.3億円で、ダム1ヶ所、ため池3ヶ所などの基幹施設が新規に建設されるとともに、ため池15ヶ所と頭首工55ヶ所の基幹施設の改修工事も行われている。

本プロジェクトは、十数年にわたりインドネシア東部の農村貧困緩和に取り組み、成功してきた。現地を知った日本人コンサルタントが工夫をこらして困難を乗り越えてきており、現地理解をふまえての、押しつけではない、日本的援助の成功例として評価できる。また、住民参加による参加型アプローチを当初から実施したケースであり、プロジェクトオフィス(コンサルタント)、役所、地域住民が協力して行い成功しているケースである。

